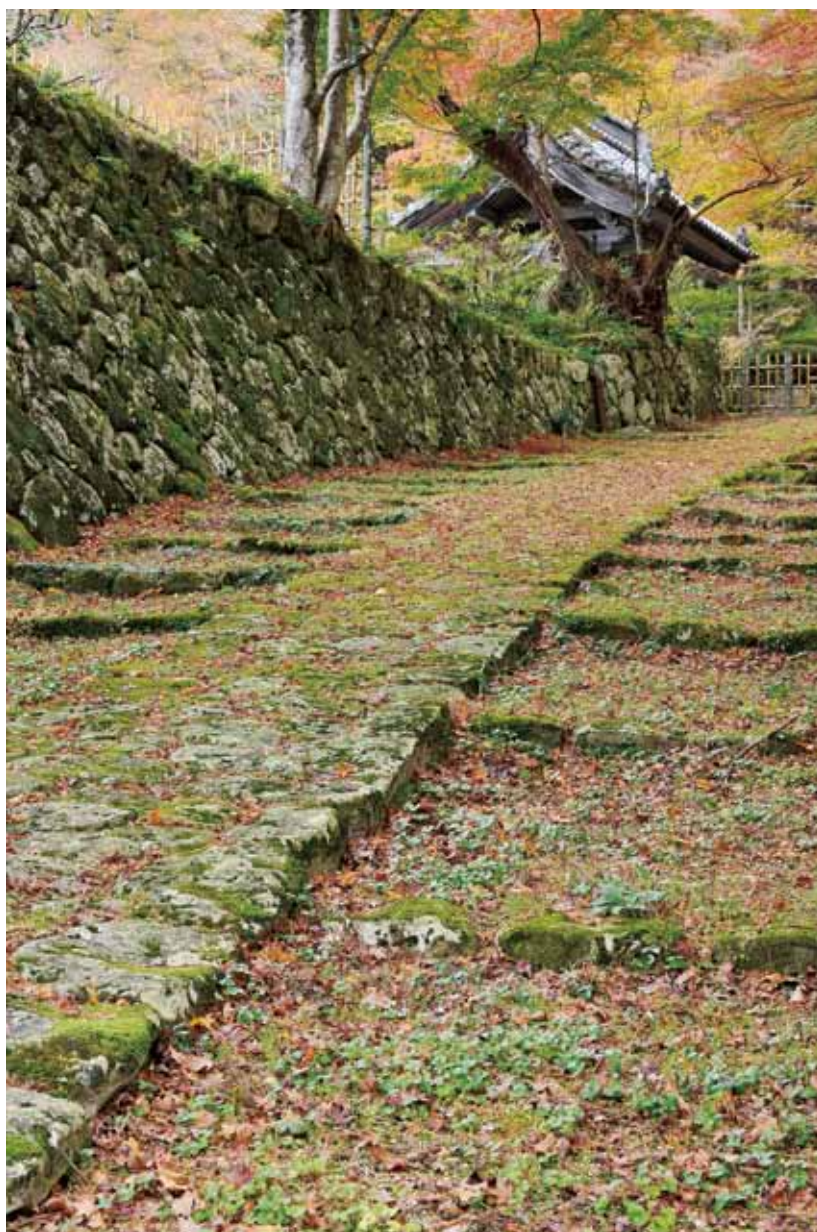


福井県医師会

だより

第664号 平成28年(2016)10月



百済寺の秋

鯖江市 清水 元博

表紙写真説明：百済寺の秋

鯖江市 清水 元博

天台宗湖東三山釈迦山百済寺の秋風景です。

百済寺は、金剛輪寺、西明寺と共に天台宗の古刹で湖東三山と称され、今から1400年の昔、推古14年(606年)聖徳太子が百済人のために押立山(771.8m)の中腹に百済国の「龍雲寺」を模して創建されました。ルイス・フロイスが「地上の天国一千坊」と絶賛した境内は、重厚な石垣に覆われた山城の趣きがあり、日本紅葉百選に選ばれています。

撮影当日は曇天でしたが、紅葉と石組をメインに当時の繁栄を偲びつつ撮影しました。

醫 縫 録

大野市医師会会長就任にあたって

大野市医師会長 松 田 祐 一



昨年4月の大野市医師会定時総会において、山川秀前会長の後任として大野市医師会会長を拝命いたしました。前任の山川会長時代の下では、4年間副会長として会の運営についてご指導をいただき、これらを礎として微力ではありますが会の発展と運営に尽力する所存であります。

去年は、福井県地域医療構想の構築にむけた県単位あるいはブロック単位での調整会議に、幾度となく参加させて頂きました。構想の内容を要約すると、病床機能の徹底と、ニーズにあった病床数への転換促進、慢性期病床から在宅医療等への移行の促進、医療・介護の切れ目ないサービスのための人材確保と他職種連携の強化等であります。このシミュレーションをみると、2025年にはまだ患者数は維持されているようですが、10年後の2035年には、いわゆる団塊の世代が85歳となり死亡平均年齢に達し老年の死亡数がピークを迎え、一人暮らし世帯の増加とともに、急激な人口減少が始まります。逆三角形の人口ピラミッドの頭の部分が徐々にそぎ落とされ、高齢化は改善されていくかもしれませんが、大都市への人口集中がますます加速され、地方の疲弊は大きな問題です。我が大野市の中心市街地でも、空き家や空き地が目立つようになり、まるで私が生まれた昭和30年代頃の様相を呈しています。ただその頃は、この空き地でたくさんの子供たちが遊んでいましたが、今は、どこにもいません。医師会の代表として、大野市人口減少対策会議にも出席しておりますが、大野市の総人口は、ピーク時には、約45,000人近くあったものが、現在は、約33,000人であり、2040年には、21,500人まで減少するものと推計されております。市の総合戦略では、2040年度の目標人口を27,000人とし、出生率を上昇させるために、若い世代の結婚、出産、子育て支援の充実や、地方の特徴

を生かした住居環境の整備や雇用の創出による都市部への労働人口移動の予防等が挙げられていますが、実際には一筋縄ではいかないようです。出産・育児について市民からは「奥越地域には、お産を扱う医療施設が一軒もない。何とかならないのか」という声です。今後、出生率を上げようとする社会努力がなされるのであれば、このことは大きな問題となるかもしれません。

このように地方が疲弊してゆく時代に、医師会も社会のニーズに合わせ変化してゆかねばなりません。以前、大野市医師会は准看護学院を併設し、大きな施設を有していましたが、学院も閉校となり、今では大野市役所内に一室を間借りしているだけの小さな存在となりました。予防接種も集団から個別接種となり、児童数の減少により学校医としての仕事も減り、煩わしい種々の会議への出席を除けば、医師会としての仕事は減少しているようです。また、各会員への情報提供や決議事項の争論などが、インターネットやモバイル通信などで、いつでも、どこでも可能となり、会議や集会が減ったことで会員の医師会への期待値や情熱がやや希薄になり、望んで役員を引き受けてくださる先生も少なくなってきました。地方の医師会は、今後、会員数の減少とともに、他医師会との合併や吸収合併せざるを得ない状況になっていくのではないのでしょうか。

ここまで、少し中期間での展望となり、自分が会長を仰せつかっている時期とは、異なった話になってしまいましたが、会長在任中には、諸先輩先生方のご指導ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。